



乳がん健診のご案内

●早期治療の重要性

乳がんは乳腺に発生する悪性腫瘍です。放置するとがん細胞が増殖して乳腺の外へも広がっていきます。血管やリンパ管へ入って全身をめぐる、乳腺以外のさまざまな組織や臓器へ転移します。その一方で早期に治療を行えば90%の方が治ると言われています。大切な事は定期的に検診を受け、早期に乳がんを発見する事です。

近年、乳がんになる女性は急激に増加しています

1996年からは女性のかかるがんの第1位となり、2013年の罹患者数は76,839人で、なんと女性の11人に1人乳がんにかかるのです。

詳細は国立がん研究センターがん対策情報センターHP

URL:<http://ganjoho.jp/public/cancer/data/breast.html>

若い頃から定期的に検査を受けましょう

乳がんは20歳過ぎから認められ、40～50歳代がピークになりますが、欧米人に比べ日本人ではより若年で発症する傾向にあります。もちろん年をとっても乳がんは発症しますし、逆に若い方の乳がんの中には悪性度が高く、非常に進行が早いタイプの乳がんもあります。

乳ガンはどんな人に多いの？

- ◇ 血縁者に乳がんの方がいる場合
- ◇ 初潮が早かったり、閉経が遅かった場合
- ◇ 初産が遅かったり、出産歴がない場合
- ◇ 授乳の経験がない場合
- ◇ 閉経後に急に肥満になった場合
- ◇ 避妊薬ピルや女性ホルモンを常用している場合
- ◇ 乳腺症や繊維腺腫など、乳腺の良性の病気があると以前に診断され方

どんな検査をうけるの？

① 視触診

乳がんやリンパ節を見たり触ったりして『しこり』を発見する方法です。現在厚労省・及び日本乳がん学会診療ガイドラインにおいて、早期発見のための有効性が不明とされています。よって当院の健診では実施していません。しかしながら、早期の乳がんを診断するにはご自身のセルフチェックが大切です。気になる症状がある場合は乳腺外来を受診して下さい。

② 画像診断

- **超音波検査(エコー検査)**:若年者の発達した乳腺は、マンモグラフィで病変を検出しにくい時があり、超音波検査が有効となる場合があります。放射線被曝の心配がなく、痛みを伴いません。妊娠中や授乳中の女性にもお勧めできる検査です。
- **マンモグラフィ検査**:乳房専用のレントゲン撮影で乳房を2枚の板で挟みながら圧迫し、上下方向から1枚、左右方向から1枚(両方の乳房で合計4枚)撮影します。触っても分からない早期の小さな乳がんやしこりを作らないタイプの乳がんを発見するのが得意で、年齢によっては超音波検査と比較して2~3倍の乳がん発見率がある検査方法です。乳房の圧迫は多少の痛みを伴いますが、乳がんの発見率を上げ、放射線の被曝量を低くするためにはとても重要で、数秒で終了しますのでご安心下さい。

当院でのマンモグラフィ検査の画像診断はマンモグラフィ読影認定医師により、ダブルチェック方式で判定を行いますのでご安心下さい。

どのくらいの間隔で検査を受けるの？

毎月ご自分で自己触診をしながら、年に一回、定期的な検査を受けることをお勧めします。

いつ受ければいいのか？

生理が始まって2~3日目以降、10日以内が胸の張りが少なく適しています。

当院での検査

- | | |
|-----------------|---------|
| ● 乳腺超音波 | ¥ 4,000 |
| ● マンモグラフィ | ¥ 6,300 |
| ● 乳腺超音波とマンモグラフィ | ¥ 9,500 |

☆当院では**女性技師**がマンモグラフィを担当しております。

予約ができない日時がありますので、事前にご確認下さい。

より詳しい検査を希望される場合は、乳腺超音波・マンモグラフィの検査を同時に受けられる事をお勧めしております。

☞ なお、次の方はマンモグラフィ検査を受診できません。

- ・妊娠中(可能性)、授乳中の方(超音波検査をお受け下さい)
- ・ペースメーカー・脳室-腹腔シャントを挿入されている方
- ・豊胸手術を受けた方

